

# 消 防 の 顔

## －生活を支えてくれている人々への感謝－

- 1 学年 第6学年〔中期〕  
 2 主題名 感謝の心〔2―(5)〕  
 3 ねらい

「ゆうき」のおばさんへの気持ちの変容を考えることを通して、日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする心情を育てる。

- 4 資料名 「消防の顔」  
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 地域の消防団について話し合う。 ○ 消防団のことで知っていることを発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お祭りの時にいた。</li> <li>・ 火の用心で回っている。</li> </ul>	○ 地域の消防団について写真等も提示し、教師が簡潔に説明する。
展 開	2 資料「消防の顔」を読んで話し合う。 ○ デパートの化粧品売り場で出会う「みち子」のお母さんのことを、「ゆうき」はどう思っていますか。 ○ 学校の避難訓練にきてくれた消防団の服装をしたおばさんを見て、「ゆうき」はどんな気持ちになりましたか。 ○ 女性消防隊の仕事のことを聞いた「ゆうき」は、どんなことを考えたでしょう。 ◎ 拍子木の引き締まった音を聞きながら、あのおばさんの顔が浮かんできた「ゆうき」はどんなことを考えているでしょう。 3 地域を支えてくれている人々について考える。 ○ 地域やみんなの生活を支えてくれている人には、どんな人がいますか。そのことをどう思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつもきれいに化粧してるな。</li> <li>・ 化粧品売り場に行くと、おばさんと話ができる。</li> <li>・ いつもと何だかちがう。別人みたいだ。</li> <li>・ すばやく消火してすごいな。</li> <li>・ 消防団の仕事はたくさんあるんだ。毎月消火訓練をするんだ。大変そうだ。</li> <li>・ 消防団の仕事は大切だな。</li> <li>・ 男性に交じってがんばっている。女性ならではの仕事もあるんだ。</li> <li>・ 消防団のおばさんはすごいな。</li> <li>・ 町を守ってくれるんだ。ありがたいな。私もがんばろう。</li> <li>・ 私たちのために、町を守ってくれてありがとう。</li> <li>・ 交通安全見守り隊の方</li> <li>・ ゴミ収集場所の掃除をする方</li> <li>・ 環境整備をする主事先生</li> <li>・ 給食技師先生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挿絵やキーワードを掲示しながら提示する。</li> <li>○ 服装の違う2枚の絵を提示し、親しみを持っているいつものおばさんとは違った凛々しさを感じていることを押さえる。</li> <li>○ 「ゆうき」が、おばさんの隠れた一面を知って驚いたこと、消防団の仕事の大切さを知って心を動かされたことを押さえる。</li> <li>○ 拍子木の音を聞きながらおばさんのいろいろな面を知って感動し、感謝している「ゆうき」の気持ちを十分に考えさせる。</li> <li>○ 自治会の人、ボランティア的に活動している人等を教師が事前に情報収集しておく。</li> </ul>
終 末	4 支えてくれている人達に、自分たちが応える方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通安全見守り隊の方に、丁寧にあいさつをする。</li> <li>・ 給食技師先生にお礼の手紙を書く。</li> <li>・ 自分たちも何かできそうなことを手伝う。</li> </ul>	○ 「心のノート」P.58,59 (支えてくれている、その思いを感じよう その思いにこたえよう)への記入を通して、自分たちにできることを具体的に考えさせる。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

本主題は、高学年の内容項目〔2－(5)〕「日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる」に基づき設定した。高学年においては、感謝の対象が人だけでなく、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、さらにはその中で生きていることに対する感謝にまで広げることが大切である。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 実施の時期

卒業を控えた6年生の後半に設定すると、自分の日々の生活が多くの人の支え合いや助け合いによって成り立っていることを具体的事実を通して自覚させやすい。それらの指導を通して生まれてくる感謝の心に基づき、それに答えようとする気持ちを育てたい。

地域行事（祭り・盆踊り・花火大会・とんど）等で消防団の活動を見る機会のある時期に扱うのもよい。

#### イ 中心場面の設定について

女性消防隊の仕事を知った「ゆうき」の気持ちや、夜の見回りの拍子木の引き締まった音を聞きながら、あのおばさんの顔が浮かんできた「ゆうき」の気持ちを考える活動を通して、ねらいにせまらせた。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入

消防団と消防署の区別がつくよう、写真等を利用して簡潔に説明し、資料に興味をもたせたい。

#### イ 板書の工夫

デパートの化粧品売場の店員と女性消防隊員の服装の違いがよく分かるように提示したり、消防団の活動の様子が分かる写真も用意したりしておく。真剣に後方支援活動をしているおばさんの表情がよく分かるように掲示を拡大するなどし、「ゆうき」の心情を捉えやすくしたい。

#### ウ 展開の工夫

中心発問でねらいを達成できるよう、基本発問ではおばさんに対する「ゆうき」の気持ちの変化をしっかりと捉えさせたい。中心発問では、ワークシートを活用し、考えを深めさせたい。

#### エ 終末の工夫

「心のノート」を活用し、支えてくれる人の思いや自分にできることについて具体的に考えさせる。地域でお世話になっている方のビデオレターの視聴やゲストティーチャーによる話の場を設定するのも効果的である。

### (4) 参考資料

くれ市政だより

呉市消防局ホームページ

消防庁ホームページ

日本消防協会ホームページ

#### 執筆者より

東北大震災の際、避難誘導で最後まで地域を巡回し、津波に流されマイクを握ったまま殉職した消防団員もいた。自分たちの生活が、多くの人たちの助け合いや支え合いによって成り立っていることに感謝し、それにこたえようとする気持ちを是非育てたいものである。

(波多見小学校 室 朋子)